



国際ロータリー第2790地区

千葉南ロータリークラブ週報

THE ROTARY CLUB OF CHIBA SOUTH

創立	1964年3月2日	例会日	毎金曜日12時30分	例会場	オークラ千葉ホテル
会長	榊原 行夫	幹事	小林 透	雑誌会報委員長	瀬谷 研一
事務局	〒260-0027 千葉市中央区新田町12-1 トーシン千葉ビル7階			TEL	043-245-3204

2010年9月第4週号

第2284回



平成22年9月24日(金) 点鐘14:00 (曇り)

—国際ロータリー第2790地区第3分区B—
『ロータリー情報研究会』

テーマ 『なぜ私たちは週一度ロータリーに集うのか』



司会進行: 千葉南RC・幹事 小林 透

- 13:30 登録受付
- 14:00 点鐘 ガバナー補佐 水野 謙一
国歌斉唱 「君が代」
ロータリーソング 「奉仕の理想」
『四つのテスト』唱和
- 14:10 第3分区Bガバナー補佐開催趣旨挨拶 ガバナー補佐 水野 謙一
- 14:15 開催挨拶及びゲスト紹介 ホストクラブ会長 榊原 行夫
- 14:20 地区職業奉仕委員会委員長ご挨拶 パストガバナー 土屋 亮平(松戸RC)
- 14:25 卓話 地区職業奉仕委員会・クラブ研修員
委員長 海寶 勘一(千葉西RC)
- 14:50 ◆◆◆◆◆ 休憩 ◆◆◆◆◆
- 15:00 各テーブル毎の討議及び意見交換
- 16:00 各テーブル毎の意見発表
- 16:40 ガバナー補佐総評挨拶 ガバナー補佐 水野 謙一
- 16:45 閉会挨拶 千葉南RC・会長エレクト 出井 清
- 16:50 点鐘 ガバナー補佐 水野 謙一

≪第3分区Bロータリー情報研究会開催にあたり≫

地区職業奉仕委員会 委員長 土屋 亮平様(松戸RC)

国際ロータリー第2790地区第3分区Bロータリー情報研究会の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。



本年度のロータリー情報研究会は、水野謙一ガバナー補佐様のご指導の下、榊原行夫千葉南ロータリークラブ会長様を始めとする第3分区Bの皆様のご協力を戴き、情報研究会をこのように立派に準備して戴きましたことに対し、衷心より感謝申し上げます。

さて、本年度の織田ガバナーは、5大奉仕部門の内、職業奉仕が最も理論的であり、倫理的であると結論づけられました。そのような観点から、今後益々増えることが予想されるであろうRIからの提示、並びに案件につきまして、各クラブがそれらについて、独自に、その是非の判断を下す必要性が想定されます。それ等に対応すべく、各クラブの職業奉仕委員会の中に『クラブ研修員会』を設置することを要望され、常日頃から研鑽を積んで頂きたいと、断つての要請でございます。

特に織田ガバナーは、今年度、各分区毎に開催されますロータリー情報研究会を地区の職業奉仕委員会が担当するように指示され、テーマも「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」と示され、「出席なくしてロータリーなし」と言いますが、出席の重要性を再確認して、真のロータリーライフを構築して頂きたいとの思いと拝察致します。

“出席と申しますと、これはクラブ奉仕の分野ではないのか?”、“今更そんな当たり前のことを議論するのか?”等のご意見も聞きますが、ロータリークラブの定例会は、些か異にします。例会と言っても一連のセレモニー、食事、卓話、それ以外にロータリーの例会にはもっと深遠なものが存在しなければなりません。それを本日掴み採って頂きましょう。それこそが、職業奉仕を理解する上で大前提であるからであります。

第3分区Bのロータリアンの皆様、今日の研修会は皆様の研究会であります。敢えて言わせて頂ければ、地区の職業奉仕の任務は、職業奉仕への道案内に過ぎません。

どうぞ活発なるご意見を頂き、楽しく、実り多い研究会になりますことを期待致します。混迷する社会で生き残る道は、唯一、職業奉仕の実践『大道無難』に尽きます。

テーマ 「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」

卓話者 地区職業奉仕委員会・クラブ研修委員会
委員長 海寶 勘一様(千葉西RC)

地区職業奉仕委員会に属します、クラブ研修委員会の海寶勘一と申します。ホームクラブは千葉西ロータリー・クラブです。今日は皆様方との友愛交流が深まることを期待して、緊張と不安を交錯させたまま、楽しみに訪問をさせて頂きました。



今年度、織田ガバナーからは職業奉仕の理解をより深めるために、14分区ごとにロータリー情報研究会を開催して、会員の皆様と地区委員が共に考え、語り合う中で、ロータリーの綱領を理解し、ロータリーの理念を認識し、より一層ロータリアンとしてのスタイルを磨くよう提議されました。第3分区Bに於きましては、水野ガバナー補佐さんに意義あるご指導を賜り、榊原会長さん始めとする千葉南ロータリー・クラブの皆様には、素晴らしい情報研究会の設営をすべてにお願いしましたこと、心から御礼を申し上げますし、大変なご尽力を頂きましたこと誠にありがとうございました。

今日は、ロータリー情報研究会のテーマであります「私たちはなぜ週一度ロータリーに集うのか」を、分区の皆様と謙虚に語りあえる絶好の機縁として、この後にありますグループ討議を意義深いものにして頂きたいものと、今から楽しみにしております。

つい先日のことですが、地区職業奉仕委員長の土屋亮平さんが書かれた報告書を目にしていまして、結びの言葉に「ロータリーの職業奉仕は大道無難につきます」と書かれておりました。その意味合いは、「誰しもが不正をせず、回り道のようにも正義を心得、慈愛をもって努力をし、悪さをせず惑わずに正義を実践するならば、事業繁栄は約束されるものである」と書かれていました。大道無難のように卓話が上手くできるか不安がありますが、しっかりとお役目を果たさせて頂きます。

さて、私ごととなりますが、ごく最近になって漸く理解されてきたことが、ロータリー精神は気高くあり、常に純真であり、常に多様性があり、常に思いやりと寛容の精神をもつことであり、友愛交流をする例会の中からは、沢山の人間学を学ぶ機会があることを感じとれるようになりました。自クラブである千葉西ロータリー・クラブでは、長年とかく奉仕活動を実践することだけに、重きをなしていたの

ですが、ロータリーの目的となっていますロータリーの綱領をしっかりと理解して、標準クラブ定款とクラブ細則に書かれております条項を一層よく読み込むことを始めました。

重ねて私自身の未熟さを露呈しますと、標準クラブ定款には第4条で綱領が謳ってあり、第15条では、入会時に綱領を受諾したことと、定款と細則を遵守する旨が書かれていることが、まったく認識不足でした。職業人として職業倫理を身につけ、考えたり学んだりする人々の集いがロータリーであることや、地区セミナー等で職業奉仕こそが、ロータリーの根幹なのだと教えられても、なかなか自分では上手く理解することができませんでした。漸く今になって、僅かでも理解ができるようになったことは、ある程度の経験と勉強の時間が必要であったことと、こうしたロータリー情報研究会や地区委員会セミナーに積極的に参加することや、クラブ内外の仲間と積極的に語り合い、考えあうことができたからでありますし、基本的な倫理観を真面目になって学ぶ大切さや重要さを、今になって謙虚に痛感しているところです。

ここで、土屋亮平委員長さんが書かれた、「忘筌(ぼうせん)」という講演文章に掲載されていた、直前RI会長のジョン・ケニーさんの言葉がありますので、基本的なロータリー原則の質問に対して、非常に分かりやすく説明をされている内容をご紹介します。

1. 「ロータリーが他の団体と異なる特徴は」との問いかけに、「ロータリーの基盤は職業奉仕です」。
2. 「ロータリアンの責務は」との問いかけに、「事業と私生活において高い道德水準を保ち続けることです」。
3. 「会員増強の目標は」との問いかけに、「会員として優先すべきは資質であり、数ではありません」。
4. 「ロータリーとは」との問いかけに、「異業種ながら志を同じくする職業人の集まりで、個々に清純でこころ温かに地域社会に奉仕の手を差し伸べることです」。

と応えていて、直前 RI 会長は、ロータリーが職業奉仕を失えば、単なる社会奉仕団体に成り下がり、職業奉仕から倫理観を失えば、職業奉仕は地に落ちてしまいますとも書かれておりました。また、地区研修リーダーの白鳥さんからも広報がされたことですが、ロータリーの友誌と月信7月号では、現 RI 会長のレイ・クリンギンスミスさんが、「クラブ奉仕と職業奉仕は、どちらも人生を謳歌し、善き市民になるよう私達を導いてくれるものである、また、社会奉仕と職業奉仕を合わせるなら、地域の地域社会を住みやすく、働きやすい場所にする事ができるでしょう」とも述べております。

さて、ロータリーで言う「奉仕の理想」の基本理念なのですが、他人に対する思いやりと、他人を助けあうことであることを確信でき、各会員が率先して職業を通して「奉仕の理想」を実践するならば、社会生活における自身の事業成功と、あわせて人生の幸福に結びついていくことだと思えます。その奉仕の理想(Ideal of Service)の意識を高めていくために、仲間をたくさん増やし、一層誠実で良心的な仕事に結びつかせたいものです。取引相手の立場を尊重し感謝をすることから、どんな時にでも真実かどうか、皆に公平か、好意と友情を深めるか、皆のた

めになるかどうか、の4つのテスト(The Four-way Test)を言行に照らしてから守り、地域社会や世界の人々とも友人になり、理解をしあうことを、健気に自己啓発していきたいものです。

1932年《4つのテスト》を考案したハーバート・テラーが、経営不振に陥ったアルミニウム食器加工会社を引き受け、《4つのテスト》を実践することで事業を再生させ、立派に繁栄を実証させた歴史的事実を知り、我々は《4つのテスト》を真摯に身につけ、その効果にあやかって、是非とも自分自身の職業の尊さと、価値を高めていきたいものです。

さて、ロータリー活動の大部分を占めているのは、毎週一時間ほど開催されるクラブ例会ですが、まさにロータリーの根幹となっており、今日出席するクラブ例会ではどんな出会いがあり、どんな気づきを得られるのだろうか、うきうきした気分期待感をもって例会に出席できるようであれば、ロータリアンもクラブも共に活性化ができると思います。

私自身ですが、自クラブやメークアップ先での例会場で意識をしていることは、先ずは例会に出席できた心身の幸せを味わい、会員の皆さんからは、有益な事業を率先されている様子を伺い、その溢れる元気なパワーを一身に受け入れることを最優先にさせながら、地区内外のクラブ例会に出席して、多くの仲間と語り合うことから、新鮮な感動と大きな喜びを味わうことができます。様々な仲間との語り合いができる例会場の感化からは、多様なエネルギーを享受することができ、自己啓発や啓蒙が素直に誇らしく思え、ロータリアンでいられることに感謝をするように心掛けています。

今から87年前の1923(大正12)年9月1日にあった関東大震災の時ですが、義捐金 25,000 ドルを贈ってくれた、日本にとってもっとも恩義ある方は、1923年国際ロータリー会長のガイ・ガンディカーさんでした。(ロータリーの友9月号30P掲載参照)ロータリーの職業奉仕の理念を高く謳い上げて、「ロータリー倫理訓(道德律)」を創り上げた方でもあり、著書である「ロータリー通解」はロータリーとは何かを教えるために書かれたものです。「ロータリーの奉仕とは、良質な職業人が例会において自己研鑽を遂げ、一例会終わるごとに自分の心の世界が深く広くなり、自分の力量が大きくなっていくことを意味するのであって、実力の涵養と人格の形成が根本である。こうして自分の人格の形成のエネルギーが、やがて社会万般を潤すことになる。これがロータリーの奉仕であります」と「ロータリー通解」には書かれているそうです。

約90年前の時代ですが、すでに、ロータリーの例会を自己研鑽の場と位置づけて、自分を磨き高めることにより自分の企業は発展し、したがって従業員も取引先も顧客も共に幸せになり、社会の発展を導くこと、これこそがロータリーの普遍的な職業奉仕だと呼びかけていたのです。私も『職業には貴賤はない』と思い、打算的な営利を目的にしながらも、相手を思い遣る優しい心を養う愛情をもっていけば、その積み重ねからは、近江商人の経営理念にあります『三方よし』、すなわち『売り手よし、買い手よし、世間よし』の達観心に繋がっていくのだと信じて

いるところです。

さらに米山梅吉翁の「ロータリーの例会は人生の道場である」はあまりにも有名な言葉ですが、「学びて然る後に足らざるを知る」という教えのように、足らざるところは無限にあるわけです。物の考え方や立ち居振る舞い、言葉づかい、生きる姿勢、あふれる情熱、持てる能力、知識の深さ、生きた情報等々、人間として、また経営者として、仲間の会員から身につけるべきことはたくさんあるように思います。

例会の目的ですが、職業上の発想の交換を通じて、相互に分ち合いの精神による経営事業の永続性を学びあい、友情を深めあい、自己心の改善を計ることにあり、その結果として奉仕の心、即ち、社会に役立つ価値を提供することや、思い遣りの心を育むことになるのだと思っています。クラブ例会は単なる食事会ではなく、親睦の場であることも忘れてはいけませんし、ロータリーの目指す親睦とは、フェロウシップである会員同士の揺るぎない信頼関係を築き上げることにあります。毎例会の中では、強い個性をもった会員同士がお互いに胸襟を開いて語り合い、毎朝、毎晩する歯磨きと同じように、お互いが職業人としての信頼と信用を磨き、正直で誠実な心磨きができることを率先できるようになりたいものです。感謝をもって「奉仕に徹するものに最大の利益あり」の倫理を信じ、率先してロータリーの一番大切な真理を学び、真の仲間づくりに専念することが、最も肝心要であることを確信しているところです。

ロータリーとは、職業奉仕理念の研鑽と実践を目的とした団体であることを、今まさに認識を深めています。それは、定款第4条に書かれているロータリーの綱領の本文に、「有益な事業の基礎として奉仕の理想を鼓吹し、これを育成する」と書かれていますし、副文第2項には「事業および専門職務の道徳的水準を高めること。あらゆる有用な職業は尊重されるべきである」という認識を深めること」とあります。「ロータリアン各自が業務を通じて社会に奉仕するために、その業務を品位あらしめること」とも書かれていますので、ロータリーは職業奉仕を目的とした仲間の集団であることが改めて理解できています。ロータリーには2つのモットー(標語)がありますが、第1モットーは、フランク・コリンズが説いた「超我の奉仕」“Service Above Self”。そして、第2モットーが、アーサー・シェルドンの言葉で知られる「最もよく奉仕する者、最も多く報いられる」“One Profits Most Who Serves Best”です。

日本のロータリーの創始者である米山梅吉翁は、第1モットーの「超我の奉仕」は、「サービス第一、自己第二」と訳し、第2モットーも、「最善のサービスをすれば、結果として最大の利益が得られる」と訳されていて、非常にわかりやすく良く理解することができます。さらには、自己を高めて他人に奉仕をすること、すなわち、人を思いやり弱者の立場にいらっしゃる方に心配りや手をさしのべて、他人に尽くす献身と誠実に行動することが、第1モットーになっている「超我の奉仕(Service Above Self)」そのものであると思うのです。

第2モットーである「最もよく奉仕をするもの、もっとも多

く報いられる(One Profit Most Who Serves Best)」という実践理論の原理は、多くのロータリアンが共鳴され、心の指針として学び、日々職業奉仕に励む勇気を得ることができていることでしょう。私のなかでのロータリーは、「人は如何に生きるべきかを考え学ぶ処」であると理解をして、卒業のない人生学校の学び舎となっているのが、毎週のクラブ例会だと信じています。

ロータリーの素晴らしさは、「ロータリーの綱領」の副文第1に書かれているように、多くの知り合いを広める事にありますし、クラブは勿論ですが区内や他地区とのロータリアンとの友情と奉仕の交流こそ、ロータリーの感動や醍醐味を、一層深く味わえるものと思っています。私の体験上なのですが、地区を越えて交流を広め深めることは、生涯を通じて利害を越えた、人生の師や真の友達を得る幅ができましたし、ロータリーの感動をたくさん享受できているところであります。

如何に魅力あるロータリーとは、楽しい例会であり、為になる例会であり、思い遣りと語り合い考え合いながら運営されることが、例会の理想になると思っています。私たちは今こそ毎週の例会場で、自発的に果敢な語り合いをして、真のロータリー、真の職業奉仕とは何であるかを考えあつて、横柄さを捨て去りお互いが豊かな心をもって、人格成長への学び合いをしていきたいものです。「ロータリーとは親睦と奉仕を通して自分を磨くこと」であり、「親睦とはロータリアン同士が、ゆるぎない信頼関係を作り上げること」であり「奉仕とは素直に人への思い遣りと気遣いや心配りをする事」であると受け止めて、毎例会ではお互いに許しあえる寛容の心を学びとっていききたいものです。

ここで改めてクラブ職業奉仕委員会の任務を考えてみますと、個々の会員に対して自己研鑽を進言したり、ロータリーの勉強会を企画して、職業倫理の誠実さを貫くことであり、自分の職業繁栄に繋がる思いを、会員同志が身を以て体験し、発表できるように奨励すべきことだと思います。あわせて、現職のロータリアンはより一層高潔な職業人を目指して頂き、現役を退かれたロータリアンは現職の方々を、一層育成鼓舞することに自信と矜持をもって頂き、クラブも会社も共に有益な活性ができますように、改めて克己心を養えるようにするのも、クラブ職業奉仕委員会の役目だと思います。

『ロータリアンよ！一流の職業人たれ』と言う、凛々しい言葉が耳に聞えるようですし、皆様と一緒に、一流の職業人を目指して、良きことを為そうとする前に良き人間であるように、一人ひとりが持つロータリーの道を、幅広く有益に歩み楽しみたいものです。ロータリーの例会や全ての集会に参加するときには、ロータリアンとしての誠実な心を磨くという目的意識を持って参加し、例会や集会を終えて職場や社会に戻れば、磨いた奉仕の心を実践に移すことを心がけたいものです。

ロータリー活動のすべては、自己啓発なのですから、率先する自己研鑽の考え方が尊重されるからこそ、最もよく奉仕をする者最も多く報いられることが、普遍的に理解できるのだと思います。会員が、付ける権利もっているロータリーバッジも、高潔な職業人として、信用し信頼

できる者が付けることを許された証であることを良く理解して、誇れる職業人の襟章として心得たいものです。

これからも、「私たちは何故週に一度ロータリーに集うのか」を心において、ロータリアン一人ひとりが、率先してクラブでの研修リーダーの役目を心掛け、スタイルを磨き、勇敢に意識改革をして頂けるように、第3分区B内6RC会員皆様の有意義なご活躍と、実りある成果を期待させていただきます。

最後に、土屋亮平地区職業奉仕委員長さんの講演文、楽をする誘惑の中にある、私が大好きな詩「人が生きるということ」の一部文を御紹介させていただき、私の拙い卓話を終わりとさせていただきます。

人が生きるということは誰かに借りをつくること
そしてその借りを返してゆくこと
誰かにして貰ったように誰かにしてあげること
人が生きるということは誰かと手を繋ぐこと
そしてその手の温もりを忘れないでゆくこと
巡りあい 愛しあい そして別れたのち悔やまぬよう
人は一人で生きてゆけない
人は一人で歩んでゆけない

ご清聴ありがとうございました。

熱く活発な討議が行われました。 ↓



第2285回例会

日時⇒ 平成22年10月1日(金) 点鐘12:30
演題⇒ 『チャレンジマッチ ～子ども達に活力を～』
卓話者⇒ 杉本 峰康会員

第2286回例会

日時⇒ 平成22年10月8日(金) 点鐘12:30
演題⇒ 『飛行機の飛ぶ仕組みと発達
(空気力学・流体力学の不思議)』
卓話者⇒ 内木 洋生様